

もろこもに

南部九州総体 2019

～響かせろ 我らの魂 南の空に～

今年度の高校総体は、愛称「感動は無限大 南部九州総体 2019」、大会スローガン「響かせろ 我らの魂 南の空に」のもと、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の4県各地で開催されました。

本校からは、8月17日（土）～20日（火）、熊本県菊池市斑蛇口湖ボート場で開催された、ボート競技に、9名の生徒が参加しました。

本校ボート部は、男子ダブルスカルと女子クォドルブルの2種目に参加しました。

男子ダブルスカルは、3年生の嶋津慶と富山大地ペアが出場しました。予選は組1着で通過し準々決勝に進出しました。準々決勝でも積極的にレースを展開しましたが組3着となり、準決勝進出はなりませんでした。

女子舵手付クォドルブルには、2年生の堀合明香莉、甲斐谷こいき、山寄理沙、鳥居亜美、鳥居亜紀の5選手が出漕しました。予選では、オールが破損するトラブルに見舞われ、5着で敗者復活戦に回りました。敗者復活戦では、組でトップとなり準々決勝進出を果たしました。準々決勝でも積極的なレースを展開し、組で3着となりましたが、準決勝へは進めず敗退となりました。

参加生徒の感想です。

嶋津慶さん =男子ダブルスカル出場=

たくさんの方の支え、協力があって、このインターハイに出ることができました。自分が今、どこまで全国の舞台で通用するかわからないから、「今できる事を出しきろう」と考えると、緊張が取れ、全力を出し切ることができました。部活引退となりましたが、様々な方に応援してもらいました。また、インターハイの前に辞めずに最後までできたのは、先生方のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。皆様ありがとうございました。

富山大地さん =男子ダブルスカル出場=

今回のインターハイでは、準々決勝敗退という結果ではありましたが、レースの内容としては自分たちの力が出し切れた良いレースだったと思います。タイムも、今まででトップクラスのタイムが出せた事に加え、何より楽しめたことがとても良い経験だったと思います。このインターハイで引退となります。今まで2年半ボートという競技に向き合ってきた中で、辛いことはたくさんありましたが、それを乗り越えたことは今後の人生の中での自信になると思います。

鳥居亜紀さん =女子舵手付クォドルブル出場=

準決勝まであと1歩でした。初めての全国でのレースは、とても楽しかったし、県や東北では感じたことのないスピードを持つクルーがたくさんあって見ていて感動するレースばかりでした。もう一度この全国という舞台で戦いたいと思いました。これからも、応援してくれる人への感謝を忘れずに日々のトレーニングに臨みたいです。

堀合明香莉さん =女子舵手付クォドルブル出場=

準々決勝敗退となりましたが、初めての全国の舞台で自分たちが今持っている最大限の力は出せたと思います。やっぱり全国の壁は高く、そんなに簡単ではないということが改めて身に染みだし、同時にまた来年この舞台でレースをして決勝にコマを進めて、本気で日本一を目指したいと思いました。決勝レースはスピード感も日本一になりたいというクルーの思いも感じ、自分たちもそういうレースがしたいなと思いました。

鳥居亜美さん =女子舵手付クォドルブル出場=

慣れない環境のなかで、自分たちのパフォーマンスをどれだけだせるか、全国のクルーにどこまで戦えるかを、自分たちの中で考えていました。いざレースをしてみると、自分たちにないスピードや技術を持っているクルーがたくさんいました。その中でも自分たちの今ある力を出し切るレースができたことは良かったと思いました。来年も絶対にインターハイに出場して、もう1回チャレンジがしたいので、これからも日々の練習を一つ一つ積んでいきたいと思います。

山寄理沙さん =女子舵手付クォドルブル出場=

インターハイでレベルの違いをみて、自分は力不足だなと思った。いつまでも同じ漕ぎ方ではダメだなと思う。意味のある練習を積み重ね、練習の中で教えてもらったことを吸収して上手になりたいと思う。そうしないと全国で戦っていけないと感じた。レースでミスをしたけど、それをよい経験として次のレースを勝ち進み、全国選抜では自信を持って自分の力を出しきろうと思う。そして来年のインターハイではメダルを取れるよう練習を頑張る。

甲斐谷こいきさん =女子舵手付クォドルブル出場=

インターハイに出場して、自分たちのレースでは課題もでたので、新人戦に向けて切り替えて頑張ります。決勝レースなどを見て、学ぶこともたくさんあり、自分たちも決勝に出場できるようになりたいです。練習だけでなく普段の生活から見直して、もう一度インターハイに出て、表彰されるように頑張ります。

